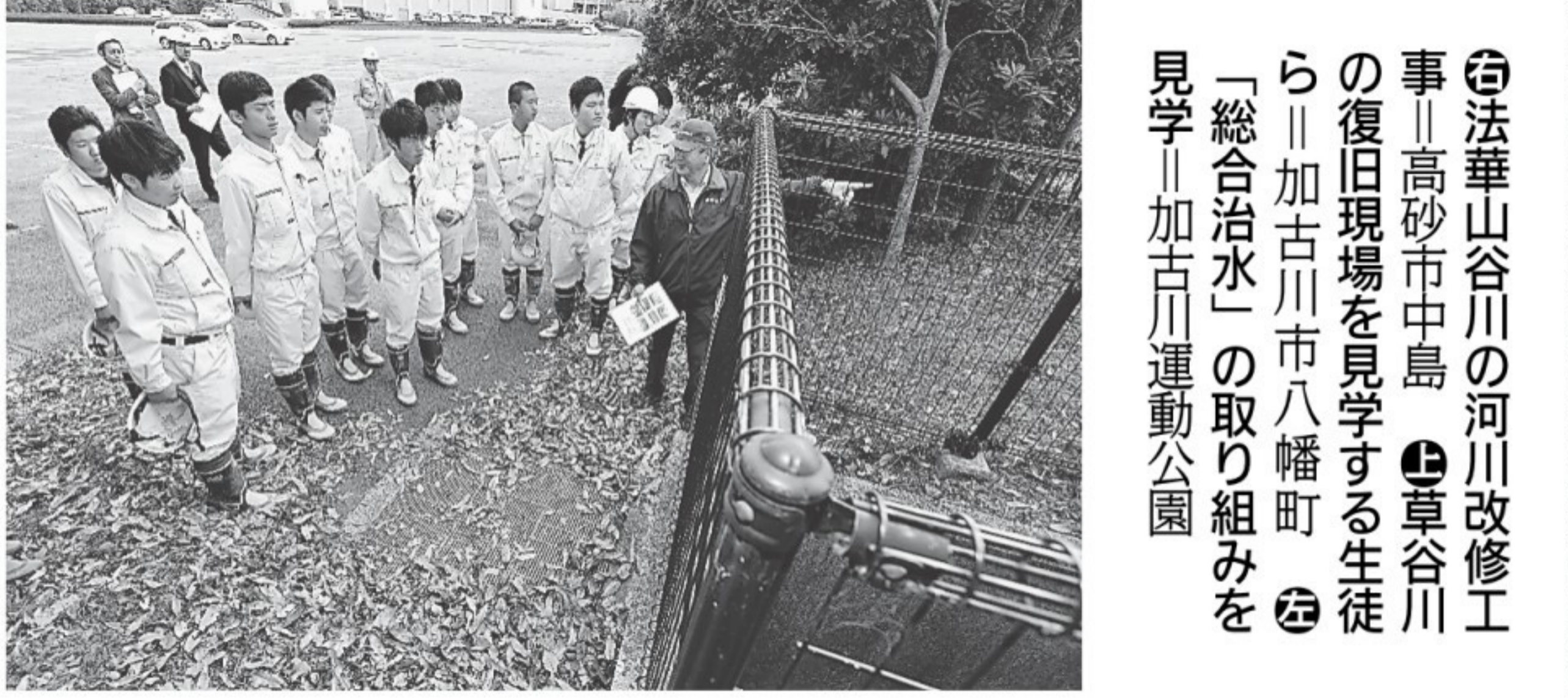


「特集 建設分野の魅力」第5回



①法華山谷川の河川改修工事。高砂市。②草谷川の復旧現場を見学する生徒ら。③総合治水の取り組みを見学。加古川運動公園。

兵庫県立東播工業高校(加古川市)の土木科2年生が、河川護岸の被災現場や河川改修工事現場を訪ね、災害や土木の仕事について気づいたこと、考えたことを話し合うインターンシップ授業に取り組んだ。テーマは「災害を通して、自分ができていること、土木がしていること」を考える。見て、聞いて、話し合う体験を通して、災害の備えの大切さに気づき、将来の進路を見つめ直す生徒もいた。36人の2日間に密着した。

「避難時、君たちはリーダーになる」

初日は東播真良局長、加古川土木事務所の伊藤裕文所長が「土木の魅力」を伝える。君たちが播磨を夢の持つるま

座学で心構え

東播工業では日々から、防災意識を高める取り組みに積極的に参加。生徒たちが地域の合同防災避難訓練に

1日目

また、県内外で相次いだ大きな水害を、動画で紹介。水の中では歩きにくい▽自動車のブレーキが効かなくなると、水につかると暗

崩れたままの護岸に息をのむ

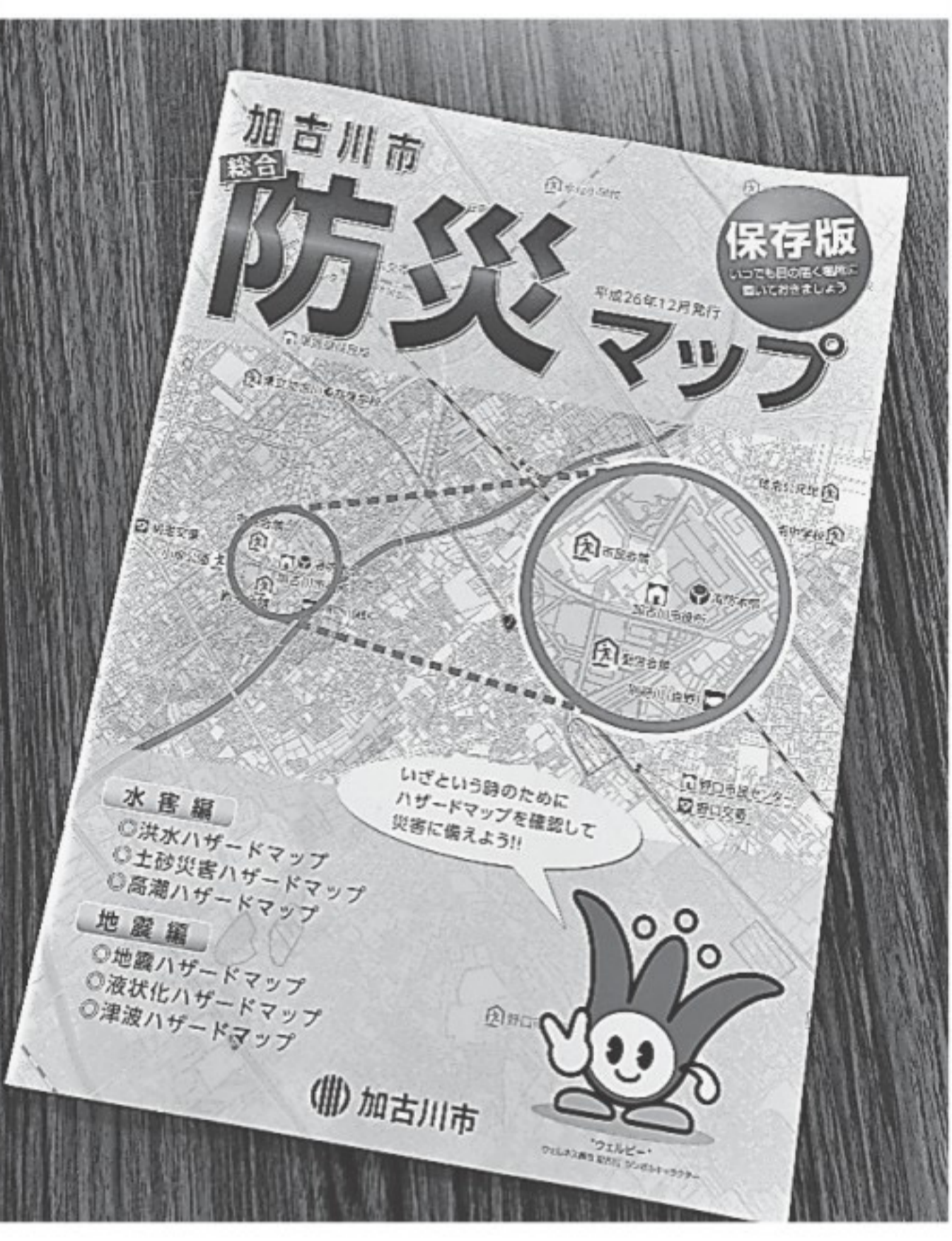
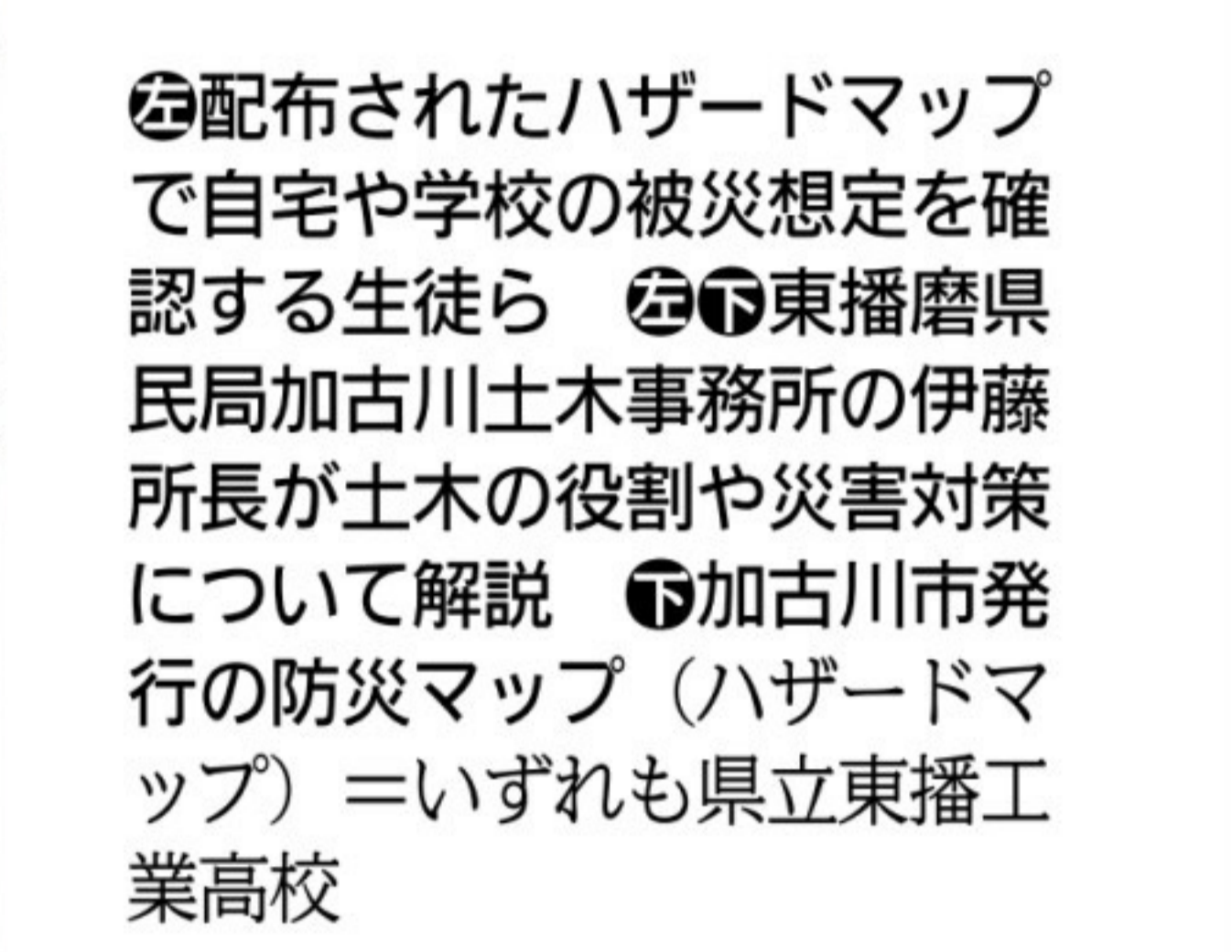
バス3台に分乗して現場見学へ。最初に訪ねたのは7月の台風11号で被害を受けた草谷川(加古川市八幡町)。

災害時に何ができるか 現場を歩いて考えた

兵庫県立東播工業高校 土木科2年生36人の2日間



【上段】①資料映像で巨大地震の破壊力を知る ②出された意見を集約、整理して模造紙に書き出す 【下段】③討議の結果発表。災害時どう動くかを生徒全員で確認 ④2人1組で2日間の体験を踏まえ「将来自分は何をしたいのか」を語り合う=いずれも県立東播工業高校



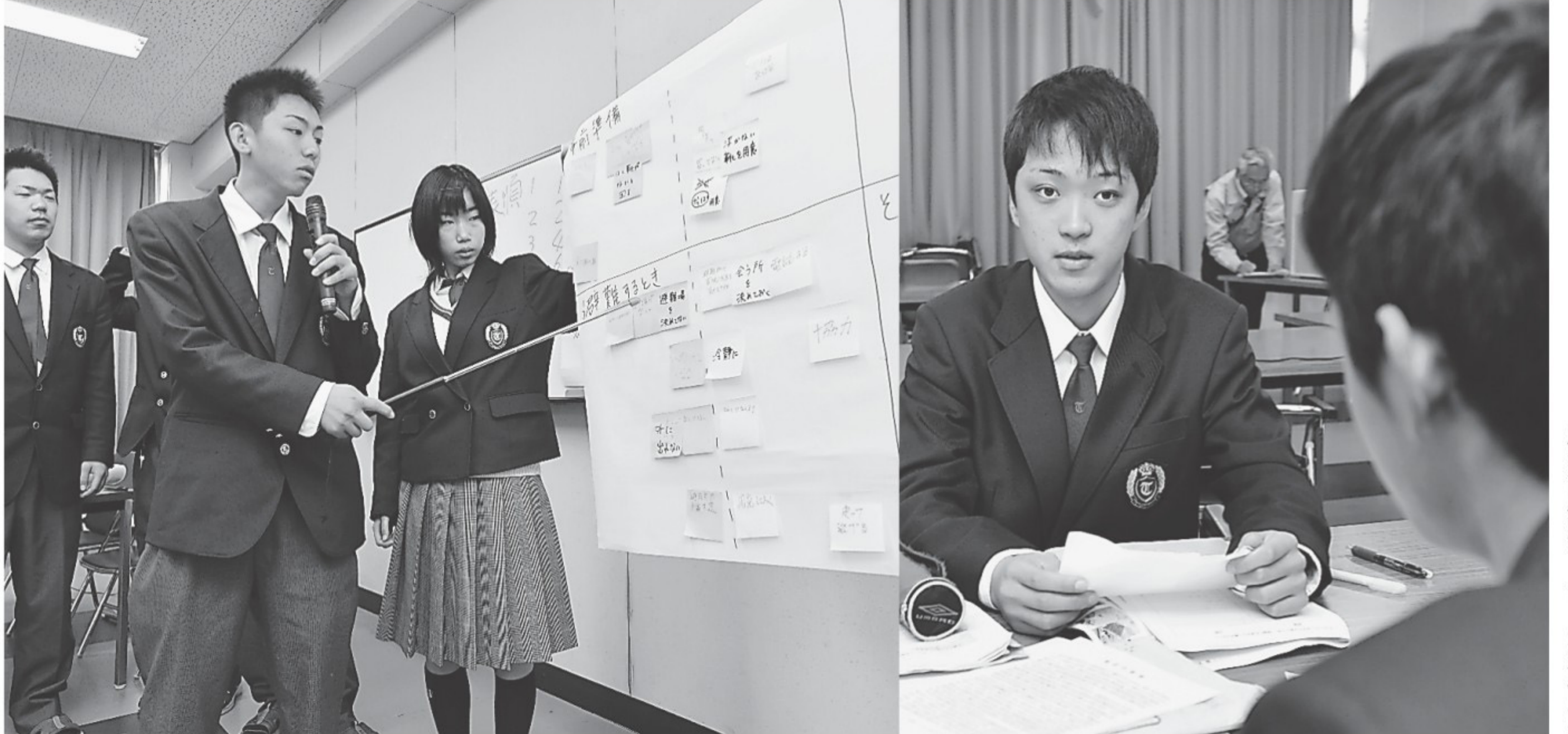
⑤配布されたハザードマップで自宅や学校の被災想定を確認する生徒ら ⑥東播真良局長加古川土木事務所の伊藤所長が土木の役割や災害対策について解説 ⑦加古川市発行の防災マップ(ハザードマップ) =いずれも県立東播工業高校

2日目

2日目はグループ討議からスタートした。テーマは、初日の授業をふまえて「大雨時に自分

「気づき」をまとめ「対策」に

最終的に模造紙に課題と対策を整理して書き込んでいった。続いて討議の結果を班ごとに発表した。事前準備では「すぐに逃げよう」としない人が

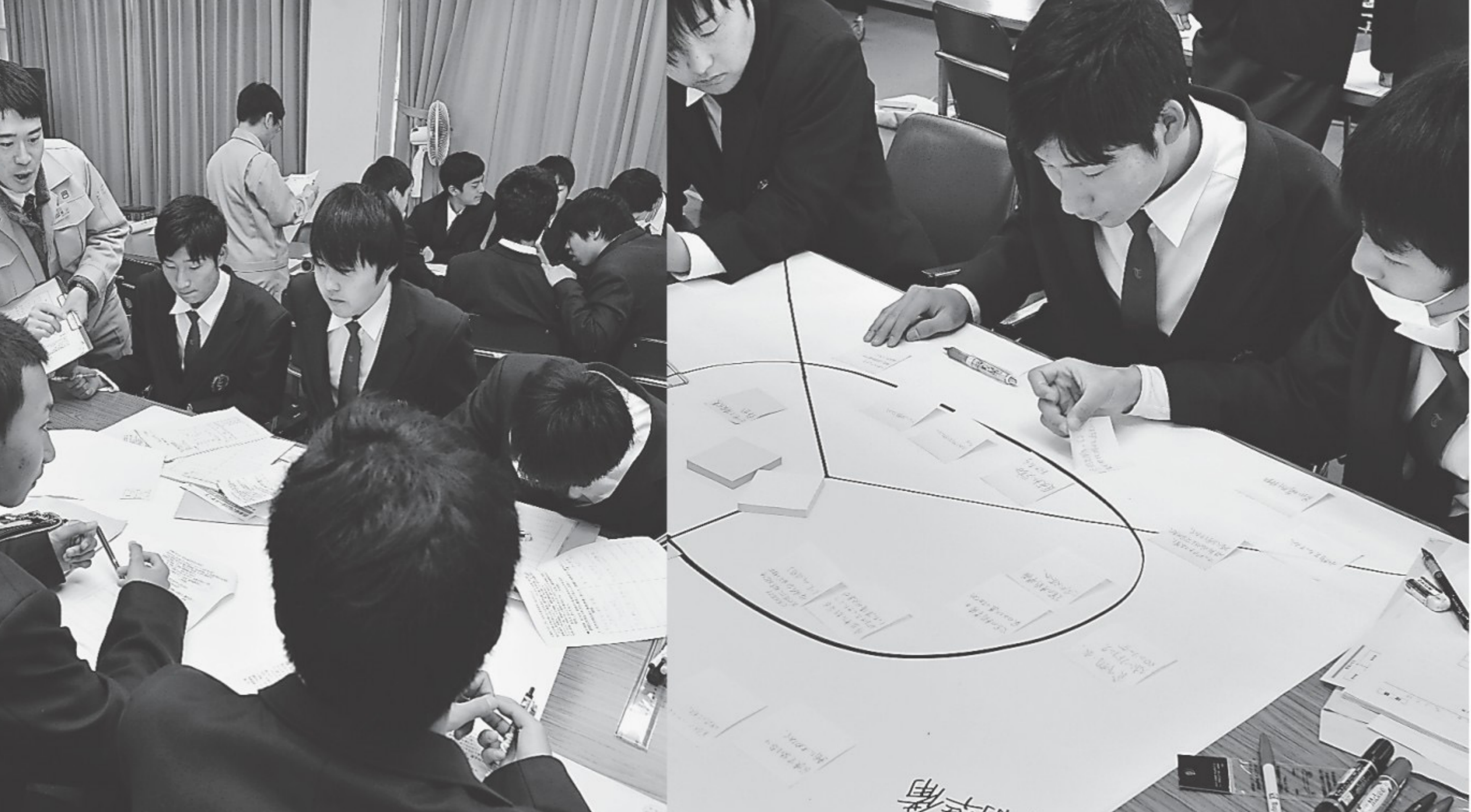


「進路に目標」「活発な議論に驚き」

同高土木科の岩本好一科長は「1日目は先生の話を聞く受け身の授業が多く、考える機会を生徒たちに与えられていないのが課題だった。グループ討議を通じて、意見を自由に発言する機会が増え、活発な議論が展開された。現場を見て、実際に体験することで、土木の仕事の重要性を感じてほしい」と期待を寄せた。



生徒の塚崎航平君は2日間のインターンシップを通じて印象に残ったことを「初日の草谷川のコンクリート護岸が崩れている状態を



⑧グループ討議。6班に分かれ、意見を出し合う ⑨思いつくまま付せん紙に考えを書いていく=いずれも県立東播工業高校